福祉広報
かめおか
発行・亀阜地区社会福祉協議会　第52号

シンポジウム'24開催（令和６年２月４日）

亀阜地区社会福祉協議会会長

ご来賓の皆さま

亀阜・児童福祉は今…
シンポジウム'24 開催

二月四日、県社会福祉総合センターにおいて、亀阜地区社会福祉協議会主催のシンポジウムが開催されました。

香川県教育委員会他スクールソーシャルワーカーの藤澤茜先生による「地域のこどもたちとつながる」と題した講演が行われました。

冒頭に、藤澤先生ご自身の子育て経験から、言葉をまだ持たない赤ちゃんでも、日々の観察から気持ちをくみ取ることができるというお話をされました。スクールソーシャルワーカーは、課題や問題を抱える児童生徒から思いを聴き、子どもと家庭を支援し、学校や環境へ働きかけなどを行っています。子どもの大切にしていること、子どもの大切な権利を守るために、一緒に考え一緒に動いてくれる心強い存在です。

「こどもたちとつながる」ためには、日々の対話を大切にし、子どもの様子を気にかけ、よく観察し子どもの「強み」を見つけることとアドバイスがありました。また声掛けをするときには「がんばれ」ではなく、「がんばっているね」と、現在進行形でいうのがポイント。結果ではなくその過程を認めること。そして、ほめる時も、何がいいのかを伝える、理由を説明することがコツなのだそうです。子どもの日常をよくみていないと、こういう言葉かけはできないからです。そしてもう一度ほめ言葉をかける。これは誰もが普段の生活で実践すべきことではないかと勉強になりました。

また最近の子どもたちの現状について、香川県の統計資料をもとに説明がありました。子どもたちはメディア、スマホの利用時間が増え、保護者は家庭教育に悩みや不安を抱え、その割合も増加しているようです。一方、家庭以外の地域の人との関わりが必要と感じているのに、関わりがあると答えた保護者は半数以下。子どもの過ごし方が多様化する中で、放課後を地域で支える繋がりの場の必要性を指摘されました。

子どもが育つためには、「誰もが自分はかけがえのない存在と感じられること、みんなでみんなを育てる地域になること、安全・安心できる人・場と繋がること」が重要。みなさんも地域と繋がりますようにと最後に希望の言葉を述べられました。

講演後の質疑応答では、会場から多様なご意見がありました。なかでも「高齢者が子どもと繋がりを持つためにできることは何か」という質問には、学校行事、イベントに参加する、登下校の見守り活動など、身近にできることを例にあげられました。地域の目で見守ることの大切さを再認識する良い機会となりました。

今回は校区内外からも関係諸団体の皆様に多数ご出席いただき、盛況のうちに閉会となりました。

（山本・大山　記）

「地域のこどもたちとつながる」ために

香川県教育委員会他
スクールソーシャルワーカー
藤澤　茜

子ども一人ひとりのおかれている状況や思いを理解し伴走者になるためには、子どもの力や可能性を信じながら、子どもと対話を重ねることが重要です。対話や信頼のないところに、私たちは思いを語りませんよね？　対話のために「何かしなきゃ」と肩の力を入れすぎず、日頃の活動に何かエッセンスを加え繋がる機会を創ってみませんか？

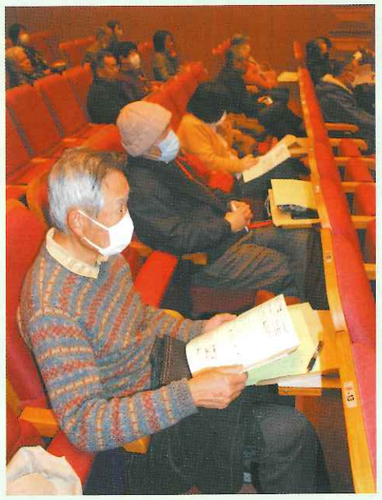
登下校時の見守りや、学校・地域の行事への参加、身近な子どもたちとの関わりから知り合いになり、変化に気づいたり、雑談ができたりする中で、本音が話せる関係に繋がっていくのではないでしょうか。子育ちを支えることは、子どもへ直接関わるだけでなく、その家族へのサポートや子どもの生活環境への対応も含まれます。例えば、子どもたちが自由に遊べる公園創りや子育ちを支える仲間を増やすことも。お互いのタイミングやペースに合わせ、臨機応変な「繋がり」を創り、地域全体が安心できる場になるよう、できることからやってみましょう。

シンポジウムに参加して

高松市民児連主任児童委員部会長
上野　忠昭

シンポジウムが開催された二月四日は、高松市子ども会育成連絡協議会の新春子どもフェスティバルが開かれていました。またこの日は、おとなと子どもの食堂「しうんまんまる広場」の開催日で、人形劇「ぶんぶくぶんぶく」の上演日でした。お昼頃、人形劇の準備のために四番丁スクエアに行くと、ドッジボール大会に参加する子どもたちとそのご家族が運動場にあふれていました。「少子化というけれども、子どもたちはいっぱいいるじゃないか」と思いながら、シンポジウムの会場に向かいました。

シンポジウムでは、スクールソーシャルワーカーの藤澤茜先生が「地域のこどもたちとつながる」という講演をされました。講演を聴きながら、ドッジボール大会での子どもたちの歓声を思い出し、少なくてもまだこんなにいる子どもたちに地域がしっかり関わり、ここで育ってよかったと思ってもらうことが、将来子どもたちであふれる地域になるのではないかと感じました。亀阜地区の児童福祉に対する意識には以前から敬服しており、高松市全体の児童福祉のリーダー的な役割を今後も期待しております。



「地域のこどもたちとつながる」ために

亀阜校区子ども会
育成連絡協議会会長
出原鈴子

午後から行われたシンポジウムの前に、高松市子ども会育成連絡協議会主催の新春子どもフェスティバル・ドッジボール大会の監督として応援に行ってきました。子どもたちの力強い頑張りに、興奮冷めやらぬままシンポジウムの会場へと向かいました。

私が育成会に携わろうと思ったきっかけは、自分自身の楽しかった思い出にあります。私が小学生の頃に、当たり前のように子ども会に入り、お祭りやキャンプ、ソフトボール大会など、地域の人たちが一丸となって盛り上げてくれました。ソフトボールの楽しさを教えてくれたおばちゃんのことは、今でも鮮明に覚えています。現在、亀阜校区では小学生の約七割が子ども会に加入していますが、すでに子ども会が無いという校区の話も聞きます。その背景には、子どもの減少や多忙化、共働き世帯の増加による役員不足などの理由があると思います。確かに、役員は大変だなと感じることもありましたが、それ以上に、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができました。

このシンポジウムに参加して感じたことは、今と昔では時代も環境も違う。でも、こんな時代だからこそ子どもや大人も含めて地域と関わる場所を残していく必要がある。そのために、私のできることをできる範囲で続けていけたらいいなと思います。

シンポジウムに参加して

高松市立宮脇保育所所長
発知みどり

地域の皆様には、日頃より宮脇保育所の教育・保育にあたたかいご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。今回、初めて亀阜地区社会福祉協議会のシンポジウムに参加させていただきました。たくさんの地域の方々が参加され、地域で育つ子どもたちのことを考え、つながりあおうという思いが伝わってきて、改めて地域の方々と共に子どもの育ちを丁寧に支えていきたいと感じました。

藤澤茜先生のご講演を拝聴し、子どもの思いを感じ、思いに寄り添いながらかかわりを重ねていくことの大切さ、そしてその丁寧なかかわりが、子どもにとって自分を認め、受け止めてくれる安心感につながることを感じました。

保育所では、散歩やバスに乗ってのお出かけ時に、地域の方に出会い、「行ってらっしゃ～い」「バスに上手に乗ってて、すごいね」と優しく声をかけてもらい、にっこり。心がほぐれ、かかわる心地よさや安心感を自然と感じている子どもたちです。

これからも、子どもたちにとって、家庭や地域の方に見守られている安心感、かかわりを通して嬉しいな、楽しいなという気持ちが膨らんでいく、そんな経験を大事にしていきたいと思います。

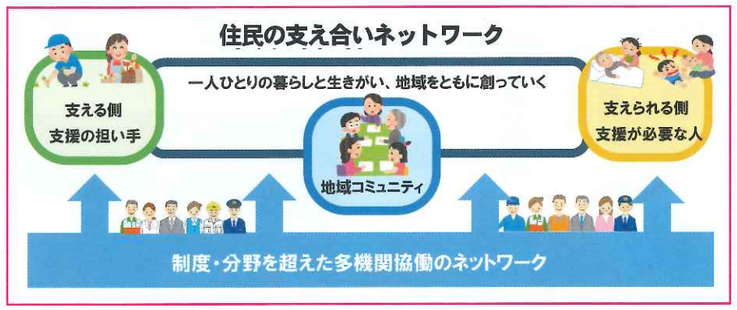
亀阜地区の『共助の基盤事業づくり』について

高松市では制度・分野の枠や「支える側」「支えられる側」という従来の関係を超えて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが生きがいや役割を持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる包括的なコミュニティ、地域や社会を創っていく、「地域共生社会」の実現に向けた取組を進めています。

年齢や性別、生活環境にかかわらず、身近な地域において、誰もが安心して生活を維持できるよう、地域住民相互の支え合いによる共助の取組を活性化する必要があります。地域資源である団体との連携構築や人材発掘を図り、ボランティア基盤（共助の基盤）の構築を目指しています。

亀阜地区社協では令和五年度より、ひとり暮らし高齢者を訪問し、ボランティアで作った赤飯・ロールパンサンドを配って、見守りを兼ねた訪問型事業を開始しました。また会場へ子どもたちに参加してもらい、お年寄りとの交流の場を作り、複合型の活動も実施しています。

❀ 赤飯作り ❀



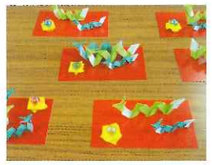
❀ ロールパンサンド作り ❀

❀ レクリエーション ❀

令和５年度　共助の基盤づくりの実施報告

月　日	配食地区	配食種類	配食数	調理場所
６月24日	北部	お赤飯	42	茜町会館
７月14日	東部・西部	お赤飯	133	亀阜コミセン
９月８日	中部	お赤飯	148	亀阜コミセン
10月21日	北部・中央部	ロールパンサンド	111	茜町会館
11月10日	東部・中部	ロールパンサンド	208	亀阜コミセン
12月16日	北部	お餅つき	36	茜町会館
１月12日	南部・中央部	お赤飯	122	亀阜コミセン
３月８日	南部・西部	ロールパンサンド	159	亀阜コミセン

❀ 子どもたちとの交流 ❀



★ ミニサロン in かめおか ★
令和５年度活動報告（抜粋）

地域で孤立しがちな方、外出の機会の少ない方などの交流の場や仲間づくりのために「ミニサロンかめおか」を開催しています。今年度も多くの方々にご参加いただきました。今後もいろいろな内容で実施してまいりますので、お気軽にご参加ください。

中央部
『お花見行きますよー！』
特別名勝栗林公園

北部
『苔玉づくり』
一緒に作りましょう♪

中部
『これからの季節に向けて
感染症予防に大切なこと』

東部
『電話が鳴ったらご用心』
こんな時どうする？

西部
『「脳トレ」をしましょう』
楽しみながらトレーニング

南部
『お正月　しめ縄かざり』
制作後はお茶で一息

ご寄付

高松市赤十字奉仕団亀阜分団様より亀阜地区社会福祉協議会に対し多額のご寄付を頂きました。厚くお礼申し上げます。

絵手紙交流

令和二年八月から始まった一人暮らしの高齢者と香大生（防災士クラブ）による絵手紙交流。昨年の十二月十日には、亀阜コミュニティセンターにて第四回対面交流会が開催され、和気あいあいと楽しい時間を共有しました。

今回、参加者の方より絵手紙交流についての感想をいただきました。

「民生委員さんから絵手紙交流へのお誘いを受け、昔懐かしい文通を思い起こしました。お便りを読んで、学生さんが頑張っている姿を思い浮かべておりました。スマホと違い、心に栄養を与えてくれるお便りに元気を頂く一年間でした。」

（豊原さんより）

「絵手紙は、歳の差を超えて私たちの心を結ぶ宝物です。どんなことを書こうかなと思いを巡らせる、ゆったりとした時間も、お返事を待つワクワクした気持ちも、お返事を読み、ぬくもりを感じる時間も、どれも私に癒しを与えてくれる大切なものです。これからも、このご縁を大切にして活動を続けていきたいです。」

（防災士クラブ　小松さんより）

高松市社会福祉大会にて

令和五年十一月二十八日　第六十七回高松市社会福祉大会が、レクザムホール（香川県県民ホール）にて、市内の福祉関係者等が一堂に会し開催されました。多年にわたり、社会福祉に尽力いただいた個人・団体の方々の表彰式が行われ、亀阜地区からは左記の皆さんが授与されました。おめでとうございます。今後とも益々のご活躍をお祈り申し上げます。

☆ 笠井　成子 様（社会福祉事業従事者）
☆ 八十川紀夫 様（社会福祉事業協力者）

後半では、長谷川修一香川大学特任教授をお迎えして『地域の災害特性を知って、災害に備えよう』と題した記念講演がありました。培ってきた研究・地域に出かけて実践する活動などをもとに講演され、自分の住んでいる土地で発生する災害について考え備えることが大切であるとアドバイスをいただきました。私達のこれからの活動に活かしていけたらと思います。

（満越　記）

なごみちゃん

あとがき

昨年の五月に、新型コロナウイルス感染症が２類相当から５類に移行しました。経済活動も、年末にはようやくコロナ禍前に戻りつつありましたが、新年早々能登半島地震が、二日には空港で航空機衝突事故が発生し、安全・安心が揺らぐ事態となりました。

あれから三ヶ月余り経過し、多くの犠牲者と避難者が出ています。復旧に向けての工事も始まったばかりで、再建にはかなりの時間がかかる見込みです。私達も、近い将来やってくると言われている南海トラフ地震に向けて、より減災意識を高め、備えなければなりません。

ところで、今年のシンポジウムでは「地域のこどもたちとつながる」というテーマで藤澤茜先生より聴講しました。地域の子どもたちの現状を把握して、今の良さ・がんばりを認めた上で一緒に考え、子どもの決定をサポートするのが大人の役割だと了知しました。子どもが安心できる地域づくりを目指して活動していきます。

第一部会編集委員　栗林　春樹

この広報誌は、赤い羽根共同募金の助成により作成しています。